

第2回都市マスタープラン検討部会 議事概要

開催概要

開催日：令和8年8月25日

場所：新宿ファーストウエスト会議室C

出席委員：倉田直道、遠藤新、中川義英、松本泰生、村木美貴（オンライン）

欠席者：森本章倫

議題

- 1 第1回都市マスタープラン検討部会等における意見と対応案等について
- 2 都市マスタープラン策定の方向性について
 - ・地域別まちづくり方針
- 3 その他・連絡事項

議事要旨

1 第1回都市マスタープラン検討部会等における意見と対応案等について

【事務局】

資料1及び資料2に基づき説明。

そのほか、欠席の森本委員から、15分都市やウォークブルの考え方を取り入れること、自動運転の実現を意識した交通施策を検討すべきであること、特に自動運転のロボタクシー等は法令遵守が前提となるため、新宿駅周辺などでは乗降場所が確保できない可能性があるという課題提起、またMaaSやモビリティハブなどの新技術について記載し、将来につながる議論を行うことについて意見があった。

【倉田部会長】

ウェルビーイングは人間の健康だけでなく、幅広い意味を持つものであり、QOLよりもさらに上位の概念として捉えられる。資料では括弧書きで「健康」とされているが、より丁寧に説明した方がよい。

【まちづくり計画担当副参事】

今後、資料に記載する際は表現に注意したい。

2 都市マスタープラン策定の方向性について

【事務局】

資料3に基づき説明。

【遠藤委員】

今回の見直しに際して、大きく方針を見直した箇所があるのか分かりにくい。四谷地域については大きな見直しがないとの説明だったが、反対に、大きく変わっている地域があれば詳しく説明してほしい。

【まちづくり計画担当副参事】

コモレ四谷の完成など、まちづくりの進捗に伴う修正や見直しを行っている。四谷地域のまちづくり方針では、資料 12 ページの青字部分が主な見直し箇所である。また、都市マスタープランとまちづくり戦略プランの統合に伴い、重複を避けるなど、方針の記載方法を再整理している。

【遠藤委員】

コモレ四谷の完成は地域内の変化だが、新宿区全体に影響するような大きな方針の変化が、四谷地域以外にあるのか。

【まちづくり計画担当副参事】

都市マスタープランのレベルで方向性や方針を大きく変更したところはない。将来像についても町会や地区協議会等から変更に関する意見がなかったため、大きな方針転換はしていない。

【遠藤委員】

各地域の青字部分を確認する必要があるという理解でよいか。また、資料 97 ページの一覧では各地域の変更箇所が青字になっておらず、対応関係が分かりにくい。

【まちづくり計画担当副参事】

各地域の資料で青字になっている部分が主な変更箇所である。資料 97 ページについても、意見を踏まえ、できる限り分かりやすい資料としたい。

【遠藤委員】

前回議論された愛着、シビックプライド、ウェルビーイングなどが、地域別の方針や地域カルテにどのように反映されるのか。また、今後の作業で言及する予定があるのか。

【まちづくり計画担当副参事】

資料 98 ページでは、創造交流・賑わい交流の心の個性を明確にするためのキーワードの追記を考えている。第 1 章に関わる内容でもあるが、地域別まちづくり方針にも記載する部分となる。

【遠藤委員】

地域によっては、ウェルビーイングやシビックプライドに強い思いを持っている場合もある。それらを地域別の方針に反映できるか、地域とのコミュニケーションを含め、内容を深めるための作業を検討してほしい。

【松本委員】

都市マスタープランの地域別まちづくり方針と、まちづくり戦略プランのエリア戦略を統合することのだが、まちづくり推進エリアは従来の 10 地域とは異なり、地域をまたぐ場合がある。統合後、実際に取組を進める上で支障はないのか。また、地域別取組と推進エリアの取組をどのように進めていくのか。

【まちづくり計画担当副参事】

地域の概況など、地域別まちづくり方針とエリア戦略で重複する部分を統合する。エリア戦略の方向性や重点的な取組は、まちづくり推進エリアとして各地域に位置づける。地域をまたがるエリアは、主要な部分が属する地域に記載する。推進方策は、第4章の推進体制に取り込むことを考えている。

【中川委員】

「統合」や「一体的に示す」という表現の意味が分かりにくい。別冊だった都市マスタープランとまちづくり戦略プランを一つにまとめ、全体像を分かりやすく示すという趣旨を明確にした方がよい。「重点的な取組までを示す内容へ更新する」など、表現を工夫してほしい。

【まちづくり計画担当副参事】

「統合」や「一体的」という言葉で誤解が生じないように、表現を検討したい。

【倉田部会長】

現行の都市マスタープランをベースとして大きな変化がないように見えるが、見直しの前提には様々な社会の変化がある。それが都市マスタープランにどのように影響し、何が変わるのかを明確にする必要がある。

防災については、これまで主に震災を対象としてきたが、気候変動による豪雨等が毎年のように発生している。洪水ハザードマップ等を踏まえ、地形や河川との関係など、地域ごとの危険性を把握し、都市計画としてどのように対応するかを示す必要がある。各地域の課題を相対的に評価し、重点的に取り組む内容を分かりやすくすることが、地域別の戦略性につながる。

また、ウェルビーイングを測る指標として、公園やコミュニティ施設等へのアクセスの確保が考えられる。15分都市の考え方なども踏まえ、単に新しいキーワードを用いるだけでなく、その評価指標を検討し、地域を見る基礎データとして示すことが必要である。

【まちづくり計画担当副参事】

洪水ハザードマップは基礎調査データに掲載している。また、戸塚地域の地域カルテでは、神田川沿いの浸水危険度や豪雨対策を地域課題として示している。ウェルビーイングについても、まちづくりの満足度や心配に感じていることなどの定量データを用い、居住者の満足度を見たい。

【村木委員】

新宿区は23区の中では都市マスタープランの改定が遅い方であり、先行して改定した他区を踏まえ、それ以上の先端性を示す必要がある。しかし、地域カルテを見ても今回の改定の目玉が分かりにくく、次の改定までの10年間に都市計画として何を実現するのが見えない。

水害についても、従来から知られている神田川の課題だけでなく、これまで問題とされなかったアンダーパスや局所的な低地で被害が発生している。今後10年間で、住みやすく、暮らしやすく、安心できるまちをどのようにつくるかを記載すべきである。全体構造で示す社会課題への対応が地域別方針に反映されなければ、改定の意味が乏しい。網羅的な記載よりも、本当に取り組むべき事項を絞って示した方が区民にも分かりやすい。

【まちづくり計画担当副参事】

庁内で新たな取組等を調べているが、目新しいものを直ちに示すのは難しい。アンダーパスの
水害等については、視点として取り入れていきたい。

【村木委員】

現在行っている新しい取組ではなく、これからの 10 年間で何を行うのかを示すことが重要であ
る。

【倉田部会長】

アンダーパスだけに焦点を当てるのではなく、現在の防災上の課題に都市計画としてどのよう
に対応するかという全体的な問題意識を持ち、それを各地域にどう反映するかを分かりやすく示
す必要がある。

【まちづくり計画担当副参事】

今後 10 年間に取り組む内容について、改めて事務局で検討したい。

【中川委員】

新宿駅周辺の歩行者ネットワークについて、駅の北側と南側を含め、新宿駅を囲むオレンジ色
のネットワークは従来から示されていたものか。また、大ガード周辺や線路沿いについて、具体
的な計画があるのか。

【まちづくり計画担当副参事】

新宿駅を囲む歩行者ネットワークは現行のまちづくり戦略プランにも記載している。大ガード
周辺では、サブナードとメトロプロムナードをつなぐ地下通路の計画等がある。

【中川委員】

西武線方面への接続は分かるが、大ガードを通り、新宿駅の周囲を回遊させるネットワークの
具体的な方向性が気になる。東西デッキの方向性が決まりつつある中で、その次の段階としてど
のような回遊ネットワークを考えるのが明確になるとよい。

また、神宮外苑地区が国立競技場、聖徳記念絵画館、神宮球場、秩父宮ラグビー場等のどの範
囲を指すのか分かりにくい。「イベント時の防犯」のイベントが、スポーツイベントや神宮外苑花
火大会等の何を指すのかも明確でない。「競技場建て替えや関連施設の整備」「宿泊機能」といっ
た記載も、対象となる施設が分かるようにする必要がある。さらに、地図中の丸数字は欠番があ
り、対応関係が分かりにくい。固有名詞や対象範囲について、誤解が生じないよう丁寧に記載し
てほしい。

【まちづくり計画担当副参事】

「イベント」は、スポーツイベント等の開催時に混雑することを踏まえ、防犯上の課題として
記載したものである。より丁寧に誤解のない記載としたい。丸数字は現行のまちづくり戦略プラン
における課題の番号を引き継いだものだが、分かりにくいいため見直したい。

【中川委員】

新宿シティハーフマラソンの発着地点や、テニスコート等への再整備後のイベントの扱いも考えられる。様々な解釈が生じないように、神宮外苑地区の定義や記載内容を整理してほしい。

【遠藤委員】

地域カルテ冒頭の分析は、区民が地域をどう捉えているかと、区の認識をすり合わせる上で重要である。しかし、四谷地域について「10年前との比較で災害への安全性が良くなったと感じる人が少ない」ことを根拠に、安全性確保の取組が求められると結論づけている点は、検証が必要である。「どちらでもない」との回答が多いことや、区内全域より四谷地域の災害への安全性に対する評価が高いことを踏まえると、もともと安全だと感じているため「良くなった」とする回答が少ない可能性もある。

全ての地域カルテについて、同じ設問に対する他地域との比較や、10年間の変化の地域間比較などを行い、各地域の特徴を的確に分析する必要がある。

【まちづくり計画担当副参事】

アンケートデータのクロス集計を充実させ、地域の特徴が分かるよう、改めて分析を検討したい。

【遠藤委員】

公民連携により、民間と協力をしながら、あるいは民間の力をうまく活用しながら区の強みを高めていく取組は、10年前より重要性が増している。公民連携の視点から現状を分析し、地域カルテや方針に反映することを検討してほしい。

【まちづくり計画担当副参事】

公民連携については部門別まちづくり方針に一部記載している。地域別まちづくり方針に記載するか、部門別まちづくり方針に記載するかを含め、その視点を踏まえて検討したい。

【遠藤委員】

前回の資料にも公民連携に関する記載があったと記憶している。

【まちづくり計画担当副参事】

公民連携の視点を踏まえ、内容を検討していきたい。

【松本委員】

地域カルテでは、アンケートから把握した方向性に加え、建物現況、地域別危険度、緑被率、道路幅員等の実際のデータや、前回計画の目標に対する達成度を踏まえ、今後の方向性を検討する必要がある。地域資源、課題、取組実績を総合し、方針を導き出す構成や流れを分かりやすく示してほしい。

【まちづくり計画担当副参事】

地域カルテ①では定量データとアンケート結果及び地図情報、地域カルテ②では地域資源と課題、地域カルテ③ではこれまでのまちづくりの取組実績を示している。アンケートについては、各地域と区内全域を比較し、地域の特徴を把握する構成としている。分析の不十分な部分は改めて見直したい。

【倉田部会長】

この 10 年間で、区民が都市に期待するものは量から質へ変化していると考えられるが、地域データは量的なものが多く、質的な状況が表れていない。

例えば、歩くまちづくりを進めるのであれば、道路幅員だけでなく、歩道が整備された道路の状況や、それらがネットワーク化されているかを示す必要がある。また、アンケートでも区民が移動手段として自転車に重きを置いてきていると考えられるが、自転車レーンの整備状況やネットワークを確認できるデータが必要である。そのほか、様々な観点から重要性が高まっている街路樹についても、地域ごとの整備状況を示すことを検討してほしい。

【まちづくり計画担当副参事】

歩道、自転車レーン、街路樹等の基礎データについて、手元にあるものを確認し、追加できるものは追加したい。質に関するデータについても、アンケートによる満足度や重要度だけでなく、活用できるデータがないか確認したい。

【倉田部会長】

量から質への変化を把握する上でも、そうしたデータを確認することが必要である。

3 その他・連絡事項

【事務局】

- ・ 次回の部会は 9 月 3 日木曜日の午前 10 時からを予定
- ・ 場所は新宿区役所本庁舎 6 階第 4 委員会室
- ・ 詳細は後日開催通知を送付予定
- ・ 資料は HP にて公開予定